

入選

水があるのは当たり前？

小矢部市立津沢中学校 三年 出村 晴菜

二〇二四年一月一日。最大震度七、マグニチュード7.6の大地震が石川県を襲った。私が住む富山県でも大きな被害があった。私は地震がおきた時外出していた。いままで感じたことのない大きなゆれに私はとても恐怖を感じた。様子を見に家に帰るとふと姉が言った。「トイレ流してないの誰？」と。それは流してないのではなく地震の影響でトイレの水がにごっていたのだ。その後、トイレもできず手も洗えない。夜ご飯も水がないので作れなかった。

私の家は一日できれいな水になったが、ニュースを見ると、にぎろどころか何日間も断水している家が多いことを知った。一日水が使えないだけでも大変だったのに、何日間も水が使えないのは、どれだけ大変なのだろうか。私は断水による被害が気になり、調べてみることにした。すると断水している地域では、給水所が設けられていることを知った。なら水による心配はないのではないかと思っただが、さらに調べると給水所が遠く、移動手段がなくて困っている人、ポリタンクが手に入らず水を運べない人などがいて、なかなか水が手に入らないことを知った。普段はコンビニへ行けば水のペットボトルが売っていて、家の水道からはきれいな水が出てくる。

こんな日本だが、本当に水は簡単に手に入るものだろうか。世界では水は生活必需品の一つとして使われている。しかし世界にはすぐに水を手に入れることのできない国がある。安心して飲める水を確保できず、その汚れた水を原因とする下痢症で命をおとしている乳幼児がたくさんいる。

こういった問題を改善するために、私たちは何ができるのだろうか。調べてみると、節水に取り組みや油を下水道に流さないなど、私たちにできることは、たくさんあった。しかし、そういった取り組みをするためには、世界の水問題や水の大切さを知っていないとできないと

思う。私の友達に聞いてみると、ほとんどが水問題について知らないと言っていた。

このような今の現状では、世界の水問題はよくなるしないと私は思う。この問題を知っている人が解決策を実行していくだけでなく、まず一人一人が水問題や水の大切さを知ることです。少しずつ解決していくと思う。

また、蛇口を回せば透明な水、買いに行けば飲める水という、当たり前のように当たり前じゃない、水の大切さをもっと日本の人に知ってほしい。

参考資料「JOBSTORY」